

## 平成 30 年度第 2 回愛知県子ども・子育て会議 議事録

### 1 日時

平成 31 年 3 月 26 日（火）午後 2 時から

### 2 場所

愛知県三の丸庁舎 8 階 大会議室

### 3 出席者

委員 21 名中 15 名

（出席委員）

兼田智彦委員、加納美加委員、栗木節子委員、小出詠子委員、後藤澄江委員、  
榊原輝重委員、佐藤益江委員、杉浦浩樹委員、鈴木公子委員、高柳彬子委員、  
中井恵美委員、林淳子委員、山本チヨエ委員、山本理絵委員、横山茂美委員

（事務局）

少子化対策監、子育て支援課長、児童家庭課長ほか

### 4 議事等

（後藤会長）

次第に従いまして議事を進めてまいります。本日の議題であります「少子化に関する県民意識調査」の結果について、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局）

資料 1、2 を説明

（後藤会長）

資料 1 は少子化に関する県民意識調査の結果の概要、資料 2 は少子化の現状分析について説明いただきました。それでは、御意見、御質問をいただければと思います。

（榊原委員）

資料 1 「2 子どもがいる人の子育てに関する意識」で「男性が子どもと過ごす時間は、前回調査と比較して平日・休日ともに増加」とありますが、休日のそれぞれの時間の%を合計しますと前回調査と今回調査の合計値が異なるようですが、記載をいただいている 0 時間～12 時間以外の時間についても調査結果があるのでしょうか。

(事務局)

参考資料1の少子化に関する県民意識調査報告書 26p-27pに記載しておりますが、資料1に記載のない12時間～24時間の割合が前回調査35.5%から今回は41.5%に増えております。

(榊原委員)

休日にそれだけ増えているということは大きな変化だと思いますので、資料でもわかるようにしていただければと思います。

(後藤会長)

他に御意見等はございますか。

(山本(チヨエ)委員)

資料1「1 少子化などに関する意識」で「25年度調査と比較して「危機感を感じている」の割合が減少し、「危機感を感じていない」の割合が増加している」とありますが、人口の減少は国力に直結する大変重要なものであると思いますが、回答者にそのような認識はあるのでしょうか。

(事務局)

参考資料1の少子化に関する県民意識調査報告書 11pに記載しておりますが、少子化が与える影響を問う設問への回答については、「年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響について」が84.8%と最も多く、次いで「労働力人口の減少など、経済活力に与える影響について」が67.8%となっております。

(山本(チヨエ)委員)

そういった影響はあると思いますが、少子化というのは自分や自分の子どもがこれから生きていく社会が変わっていくということだと思いますので、少子化という現状を自分自身の事として受け止める当事者意識をもっていただければと思います。

(小出委員)

少子化は我が国の将来を左右する大変重い内容であると感じていますので、限界があるとは思いますが、もう少し回収率の上昇を目指すべきであったのではないのでしょうか。また、予定の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由として、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が挙げられておりますが、子育てや教育が多様化している昨今において、二極化する経済状況や就労状況などを捉えた分析が必要なのではないのでしょうか。

(事務局)

今回の会議や記者発表では調査結果の大まかな傾向を報告させていただきましたが、御指摘のとおりプランを策定していく際には、より詳細な分析をしていきたいと思っております。

(中井委員)

資料1については、ここで取り上げている調査結果が参考資料1の調査報告書のどのページに記載されているか分かるようにしていただけるとよかったです。

また、数ある質問項目と調査結果のうち、資料1で記載されている項目を取り上げた理由について教えてください。

(事務局)

クロス集計等については細かすぎますので、資料1や記者発表においては「少子化などに関する意識」「子どもがいる人の子育てに関する意識」「独身者の結婚に関する意識」「ワークライフバランスに関する意識」の各項目のうち主だったものを取り上げております。

(後藤会長)

その他に御質問はよろしいでしょうか。

ただいま議論をいただいた内容と関連をしてくると思いますが、次の議題の次期「あいち はぐみんプラン」の策定について事務局から御説明をお願いします。

(事務局)

資料3、4、5を説明

(後藤会長)

資料3「あいち はぐみんプラン 2015-2019」の概要、資料4は策定のスケジュール、資料5は一体的に策定している関連計画について説明をいただきました。

「はぐみんプラン」は少子化に関する計画ですが、児童虐待や子どもの貧困など様々な性質をもっております。来年度の子ども・子育て会議でプランの重点目標等の事務局案の検討を行うにあたり、今回お集まりいただいた委員の皆様のそれぞれのお立場で御意見をいただければと思います。

(兼田委員)

子育て支援に関しては、これから高齢者世代がどのように子育て支援に携わっていくのかが重要になると思います。また、虐待対策については国の指針を踏まえて対応していかなければならないと感じております。

(加納委員)

幼児教育・保育の無償化が始まるにあたり、労働組合の立場としては女性が今よりもっと仕事で活躍できるのではないかと期待しています。また、放課後児童クラブでは、いわゆる「小1プロブレム」やクラブで働く人の不足など様々な問題があると思いますので、保育所のみならず放課後児童クラブの支援にも力を入れていただきたいと思います。

(栗木委員)

資料5の子ども・子育て支援事業支援計画の段の右側「次期計画策定にあたっての国の指針等の動向」に「6月に幼児教育・保育の質の向上を踏まえた指針の改正」とありますが、教育・保育の質の確保が具体性・実効性のある施策として指針に盛り込まれることを期待しております。

(佐藤委員)

学校教育の立場としては、少子化問題や働き方などの問題について小学校の段階から意識づけをしていけば変わっていくのではないかと考えています。また、少子化の問題解決には学校教育の分野と福祉の分野との連携が不可欠ではないかと考えています。

(杉浦委員)

一宮市の子育て支援課から市長会の立場で会議に参加しております。一宮市でも子ども・子育て支援事業計画の策定資料としてニーズ調査を実施したのですが、回収率は60%を超えました。未回答の方も含めた調査対象者にお礼兼督促状を送付しましたところ、回収率がアップしたのではないかと考えております。また、資料4にパブリックコメントのスケジュールが記載されておりますが、もう少し早めの時期に計画案を固めすぎない段階でパブリックコメントを実施することも一つの手だと思います。

(横山委員)

資料4で説明のありました専門家会議にも参加しており、養育里親の数を増やす広報啓発に尽力を尽くしておりますが、里親さんの高齢化など様々な問題がありますので、今後、専門家会議のなかで十分に議論を尽くしていきたいと考えております。

(山本(チヨエ)委員)

この会議には愛知県中小企業団体中央会(あいち女性中央会副会長)の立場で参加しておりますが、全国家庭教育支援センターというNPOで活動しております。

はぐみんプランのような計画を行政につくっていただいておりますが、施策が子育ての当事者に迅速に届くということが重要ではないかと考えております。

(林委員)

愛知県小中学校PTA連絡協議会から保護者の立場として会議に参加しております。お母さんと話をしていると「子どもは3人ほしい」といった声をよく聞きますが、一方でお母さんたちは日々とても忙しくしています。はぐみんプランのような計画と支援については保護者にとっても大変ありがたいのでPTAにも伝えていきたいと思っております。

(中井委員)

次期プラン策定にあたっては、妊娠期からの切れ目のない支援をしていただきたいと思います。私たちの活動のなかでお母さんとお話しする機会があるのですが、保健師さんからの指導を受けているとお母さんは怒られているような感覚があると言っていました。相談したい方は外に出ていく

こと自体が難しいと思いますので、「あいち はぐみんプラン 2015-2019」の 89p に紹介されている刈谷市の「育児ママサポート」のような訪問支援の事業が進むとよいと思います。

(高柳委員)

愛知県私立幼稚園 PTA 連合協議会から保護者の立場として会議に参加しております。はぐみんプランのような計画で様々な支援をしていただいますが、行政や有識者と保護者の感覚には少し温度差があると感じていますので、様々な施策を保護者にとってわかりやすく伝えるような機会があるとよいと感じました。

(鈴木委員)

児童館で子どもたちを対象としたボランティアに取り組んでおりますが、お母さんたちはすごく忙しくて放課後に預ける場所がないといった声を聞きますので支援を充実していただきたいと思えます。

(山本副会長)

今回お集まりいただいた様々な立場の方から貴重な意見をいただきましたが、全体の立場から意見を言わせていただきますと、教育・福祉・医療の連携が少子化対策全体を総括していくうえで大事になってくると思えます。また、県民意識調査の結果では経済的支援が求められているということですが、プランの施策で考えた場合、今のプランではひとつの基本施策に経済的支援が位置付けられていますが、経済的支援というのは様々な施策に関連してくるものではないでしょうか。

(後藤会長)

委員の皆様、御意見ありがとうございました。

最後に事務局のほうから今の御意見に対して御回答をいただければと思います。

(事務局)

少し話が戻りますが、先ほど中井委員から御質問をいただきました、少子化に関する県民意識調査の数ある質問項目と調査結果のうち、会議資料として資料 1 で記載されている項目を取り上げた理由について補足説明をさせていただきます。

第一義的には、5 年前の調査においても同様の項目について取り上げており、5 年間の経年比較をお示しすることが重要であることから今回も同じような項目を取り上げております。

もうひとつは行政が考える少子化問題の構造が表されておまして、例えば少子化の危機感については、行政においては消滅自治体や離島や山間地域などのインフラ整備等、10 年以上前から少子化が抱える問題に危機感を持っているなかで、県民の皆様はどのように感じているか聞いた次第です。

また、人口減少の要因については諸説あり未だに明確な答えは出ておりませんが、結婚さえすれば子どもができるという考えであったものから、最近では晩婚化・晩産化などにより夫婦の子どもの数が減っている。また、理想の子どもの数は実際の子どもの数に与える影響が大きく、重要な指標である「理想の子どもの数」及び「予定の子どもの数」及びその理由に関する質問についてピック

アップしております。

そして夫が家事に関わる時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高いという関係性がありますので、男性の子どもと過ごす時間に関する質問を、また、独身者の方には結婚に関する意識についての質問、昨今のワークライフバランスを推進する流れの中で働きやすくない原因に関する質問、そして最後に行政に期待する施策に関する質問をピックアップしております。

(後藤会長)

補足説明についてありがとうございました。最後に事務局のほうから総括をお願いいたします。

(事務局)

小出委員から御指摘のありました県民意識調査の回収率、また、杉浦委員から御教示いただきました回収率を上げるための督促状の送付についてですが、前回調査では督促状を出しておりましたが、今回の少子化に関する県民意識調査では予算の都合から督促状を発送しませんでしたので、次回の調査ではそのあたりをしっかりと対応していきたいと思っております。

委員の皆様から御意見をいただくなかで出てきましたキーワード、例えば幼児教育・保育の無償化や質の確保・人材の確保、放課後児童クラブの充実などございましたが、放課後児童クラブについては、平成30年5月1日時点の待機児童数が767人と大変大きな数字となっておりますので、対策に力を入れていきたいと思っております。

また、子育て支援と学校教育の連携、子育ての担い手として高齢者の活躍、子育てに不安を抱える家庭を訪問する支援、教育・福祉・医療との連携、子ども行政の支援が当事者に届けられていないという御指摘についても計画策定後にしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

本日いただきました御意見・キーワードについては次回の会議で検討をしますプランの体系にしっかりと反映していきたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

(後藤会長)

ありがとうございました。議題2については委員の皆様の御意見を踏まえ事務局の方で検討をいただければと思っております。それでは議事が終了しましたので、進行を事務局にお返しします。

(事務局)

長時間にわたり、議論いただきまして、ありがとうございました。本日の議事録につきましては、後日、発言された方に内容を御確認いただき、議事録署名者お二人からの御署名の上、ホームページに掲載いたします。

それでは、これもちまして、平成30年度第2回愛知県子ども・子育て会議を終了いたします。本日はありがとうございました。

議事録署名人

印

議事録署名人

印